

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 7年3月25日

学校法人星和学園
幼保連携型認定こども園
星和幼稚園

1. 本園の教育目標

神に創られ愛されている存在として、いろいろな体験を通し、心の調和を図り、神と人とを愛する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・幼保連携型の良さを十分に生かせるように、年齢別の保育を大切にするとともに、異年齢交流も行い、子ども同士で育ちあえる環境づくりに努める。
- ・自然災害に対する意識だけでなく、不審者対応の危機管理についても意識的に取り組めるよう話し合い、訓練する。
- ・コロナ後の行事運営を構築し、充実させるよう努める。
- ・職員間の情報共有を密にする。
- ・職員が研修に参加し、キャリアアップする機会を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	年齢別の保育を大切にするとともに、異年齢交流を行なう。	A	・昨年に引き続き、それぞれの年齢に合わせた保育環境を整え、保育を行なうことができた。 ・行事の時だけでなく、普段から異年齢のクラスが給食を一緒に食べたり、散歩へ行ったりする交流が活発に行われた。
2	危機管理意識の向上	B	・毎月の避難訓練に加え、不審者対応の訓練を年に2回行った。 ・『園防災新常識』という本を用いて職員の園内研修を行い、防災への考え方のアップデートを図った。 ・園外から不必要に見られることを避けるために、パーテーションを購入した。
3	コロナ後の行事運営に取り組む	A	・昨年度の反省をもとに、職員も行事を楽しむことを心掛け、子どもたちも達成感や楽しさを味わうことができたのではないかなと思う。 ・苦手意識を持っている子どもや配慮が必要な子どもへのアプローチをどのようにしていくかが課題である。

4	職員間の情報共有を密にする	B	・ノートを用いて連絡事項の共有を図り、以前より共有することができたが、まだ十分とは言えない。 ・部署が異なる職員間で共通理解を持つための努力をしているが、連絡漏れなどもあったので、より徹底していきたい。
5	職員が研修に参加し、キャリアアップする機会を作る。	A	・キャリアアップ研修やその他の研修に積極的に参加し、日々の保育や保護者支援に役立てることができた。 ・研修で学んだことを他の職員に分ち合う機会を持つことができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	子どもたちは穏やかにのびのびと過ごしている。クラスや学年を越えて交流する機会が増え、自分より小さい子に対して優しく接する姿も見られた。また、それぞれの行事に積極的に参加し成長する姿が見られた。 保護者は協力的で、母の会の活動も役員の方を中心に各委員会の方の協力があり、子どもたちにより良い環境を整えることができた。 教職員間の連携、情報共有は今後も課題があるが、少しずつ前進している。保育者は子どもたち一人ひとりに寄り添い、協力して保育にあたっている。職員が必要な時に振替や有給などの休暇を取りやすい環境づくりが課題である。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	地域社会との関わり	地域社会とのかかわりがまだまだ薄いため、交流できる場を考えていく。例えば、勤労感謝の日に消防署などへ訪問に行くなど。
2	職員間の情報共有を密にする	情報共有のためのノートや掲示板の活用。怪我を防止するためにも、遊具や教具の使い方についても共通認識を深めていく。 保育部、教育部、預かり保育の間で意見交換できる場を作る。
3	危機管理意識の向上	現代にあった防災対策を職員で共有するとともに、業務継続計画（BCP）の策定に向けて取り組んでいく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

1号認定児のゆるやかな減少傾向が見られるが、2・3号認定児は定員いっぱいであり、特に3号児では第一希望で入園される方が多いと聞いている。今後も、引き続き、日々の保育の向上とともに、先生方の育成に力を入れ、益々よい園に成長していくことを願っている。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に園運営されていると認められた。